

# 理事会の動き

## ◆91回理事会報告

平成2年5月19日(出)に第91回素心会理事會が、厩沢駅北口の「一角若松」にて開かれました。

- 8名の役員が出席し、次の通り審議・決定されました。
- (一) 平成元年度事業報告及び決算(案)について審議し、原案通り承認されました。
  - (二) 男子棟改修工事に伴う借入金及び担保提供について
  - (三) 三〇〇万円を県社会福祉協議会より借り入れる事及びその担保として本館建物一、六六〇・九二㎡を提供することが承認されました。
  - (四) 役員選任について

なわれ次の通り決定しました。任期は平成2年5月31日より平成4年5月30日までとなります。尚、四期八年間ご活躍いただいた山下、理事山下産業社長はここで退任することになりました。長い間ご尽力をいただきましてありがとうございました。

- |     |       |
|-----|-------|
| 理事長 | 守水 義輔 |
| 理事  | 田島 静男 |
| 理事  | 坂田 晋一 |
| 理事  | 辻 功   |
| 理事  | 伊藤 敏雄 |
| 理事  | 菅 寿子  |
| 理事  | 稲垣 直太 |
| 理事  | 田代 哲郎 |
- (佛HOYA課長)  
(佛信栄社長)  
(紅梅会 神奈川共同会理事)  
(神奈川県厚生協会 奥福協理)  
(大坪会計事務所所長)

## 新理事のご紹介

柳田直雄氏 S.20・10・1生  
大磯町国府本郷九三五在任

相模国総社六所神社の宮司としてご活躍され、他十五社の宮司になられています。地元若手実力者として、素心会の運営にお力をお貸しいただけることになりました。



## 後援会加入のお誘い

みなさん!!  
素心会後援会に加入しませんか  
私たちは素心学院の運営を側面より援助し、すこしでも障害者に対する理解を深め、あわせて福祉に寄与できればという思いで活動をしています。

会費は個人が 年 1,000円以上  
団体が 年 10,000円以上です。  
会員には、新聞「そしん」(年2~3回)が郵送される他「後援会ニュース」が届きます。

●口座番号 横浜7-019507  
社会福祉法人 素心会後援会

おりかえし、パンフレット、領収書等をお送りいたします。

後援会会長 水沢孝幸

事務局  
〒259-01 神奈川県中郡大磯町虫塚24番地  
素心学院内(担当:彦坂)  
TEL 0463-71-1255  
現在 会員数 280名

## 第 15 号

1990年10月13日発行



**元気屋** 現在、素心学院内には、3つのグループ8つの作業班があり、作業の製品や

活動を通して地域の皆さんとお付き合いいただいています。

そんな毎日の作業の中で、素心学院という硬い名前前でなく、各班が共通して使え、地域の皆さんにもより親しんでもらえるマークやブランド名はないだろうか…と、職員の間で話題になったのが今年の1月でした。

# 屋

院の人達の顔と声

元気屋の名前は、覚えやすく、名前を口にするたびに、仕事が

したくなるようにと名付けました。

“元気屋”のマークやブランド名が大磯名物になるくらいに、我々素心学院一同、元気元気に仕事をしたいと思っています。

応募作品が多彩なら、投票もバラバラ。またしても1ヶ月かけてやっと決まったのが、この「元気屋マーク」です。

このマーク、実は人の顔です。院生の石塚さん得意の図柄です。

# 元

中には、そのまま大磯名産のおみやげ品に使えるような、クラシッ的な名前から、今、流行のアパレル業界で、すぐにでも売り出せそうなブランドマークまで多種多彩……。

さっそく学院内に掲示して、投票をはじめました。

# 気

上から見るか、下から見るかは別にして、私達、元気に働く素心学



## 虫窪24番地

隣の「ベベ」は大切な友達だった。ベベは、俗に云う犬小屋に住んでいたが、この家、幼い子供には格別の魅力があったのだ。ベベのところへ行くと、その家の中で2人？で遊んでいた。4才頃だったか、親に叱られて家から放り出されたことがあった。謝まるのがしやくで家を出て決意した。行き先は当然の如くベベの家だった。ベベは、あなたかく迎えてくれた。

さっそく職員、院生をはじめ素心学院関係者に広く、マークとブランド名を募集することになりました。約1ヶ月間に、集まった応募作品が、なんと48点!



「家出」なので、すぐに見つかった。しまりのも音がしない。ベベと相談の結果、子供が奥に、ベベが手前にと移動することにした。これだと外からパッと見ただけではわからない。ベベはうれしそうにしゃべりを振って子供を抱きかかえるように横たわった。モコモコしたベベの体温を感じながら外をパタパタ歩く音や聞き慣れた声を遠く近く聞いているうちに、寝入ってしまった。次に目覚めた時、子供は家の中にいた。親はもう怒っていない。家の中には味噌汁の香りが漂っていた。ふと気がなり外に出てみると、ベベは夕食を撰っていた。何となくほっとした。秋の夜長、セピアに染まりはじめた一枚の写真を眺めながらしばし思い出に浸る。

## ありがとうございました。

お餅に託された暖かい心を、受け取らせていただきました。



ボボ

## 編集後記

▼「コーヒー」は、ゆつくり味わって飲みたいと思う。味も大切だけど雰囲気もちょっと選びたい。学院で一番陽当りの良い職員室。ここを「素心コーヒーラウンジ」としよう。ちなみに私は、カウンターの中のママさんになろうと思います。(陽)  
▼裏山で白い鳥に背後から体当たりされた時は驚いた。自分より、体の大きな人間に闘いを挑んだ、その勇しさには脱帽、あっぱれ。羽は白いが、肉は黒。卵の色も黒かった。それは一個四百円、相当の高級品だとか。四羽いたが、イタチにやられ、今最後の一羽が山で鳴く。(玉)  
▼原稿を書くのは大の二方手。何かの間違いでずーっと編集に携わっている。本当に何かの間違いではないか。今号は特集を担当したものの原稿を書けずに四苦八苦。頭をボリボリ書いて紙を丸めてポイ。紙資源を大切にの言葉がよざる。(見)

▼そして発行は  
神奈川県中郡大磯町虫塚24  
電話(0463)71-1255  
社会福祉法人 素心会  
素心学院施設長 田代哲郎

精神薄弱者生活ホーム設置運営要綱—より抜粋

(入居対象者)

第4条 生活ホームの入居対象者は、原則として18歳以上の家庭における指導が困難な精神薄弱者が就労あるいは障害者地域作業所等に通所しながら指導することにより自立生活を営むことが期待できる者とする。

(入居者の負担)

第11条 生活ホームの入居者は、飲食物費、光熱費、家賃及び共益費を負担するものとする。

精神薄弱者地域生活援助事業(グループホーム)設置・運営マニュアル—より抜粋

第一 総論

1. グループホームとは何か

グループホームは、精神薄弱者の地域における生活の場のひとつである。精神薄弱者も「普通の場所で普通の生活をするのが当然」という考えにたつものである。すなわち、基本的に人としての社会的地位は何ら特別のものではないということである。(省略)

誰でも、地域社会で生活するためには、住宅費その他の経済的負担を負うことになる。精神薄弱者も同様である。精神薄弱という障害がある故に他の人たちが必要となるサービスとは、本人ができない部分を補うことである。グループホームの制度とは、この「補い」の部分に対して公的に補助することである。

なお、グループホームについて、ここでは次のように定義しておくこととする。

「地域社会の中にある住宅(アパート、マンション、一戸建等)において数人の精神薄弱者が一定の経済的負担を負って共同で生活する形態であって、同居あるいは近隣に居住している専任の世話人により日常生活援助が行われるもの。」

5. 入居者

(1)入居者は、次の全ての条件を満たしていなければなりません。

- 15歳以上の精神薄弱者であること。
- 日常生活上の援助を受けずに生活することが、可能でないか又は適当でないこと。
- 数人で共同の生活を送ることに支障がない程度に身辺自立ができていないこと。
- 就労(福祉的就労を含む)している等継続的な活動に従事していること。
- 日常生活を維持するに足る収入があること。
- 入居時に精神薄弱者支援施設(入所)、精神薄弱者通所作業等の施設の措置を解除してあること。
- グループホームでの生活の持つ意味を十分に理解し、継続して入居することを希望するとともに、それが可能であると認められること。

入居にあたって、親など家族の承諾は必要としない。なお、世話人と親子関係、同胞関係にある者は、同一グループホームの入居者にはなれません。

窓がついてなかなかモダンである。これらの建物は借家であるが、大家さんがわざわざホームのために建ててくださったもので、そういった面では素心のホームは恵まれている。部屋は、個室と二人部屋、ほか十六人そろって食事のできる食堂やリビングもある。

この一日の様子は、朝六時起床、身支度、掃除。そして朝食をとって順次出勤していく。帰りは五時半頃より一人二人と戻ってくる。ひと休みして入浴、夕食。後かたづけは当番制になっていて、自分たちで行なっている。

その後は洗濯をしたり、テレビを見たり、カセットを聞いたり、日記を書いたり、勉強をして過ごしている。中にはすぐにベッドの中にもぐり込んでいる人も……消灯の目安は十時。朝が早いので、休日前夜以外ほしたいの人が、この時間に布団に入る。

休日は午前中、片付けや外回りの掃除。昼食は四人ずつ四グループに分かれて、毎週交替で食事を

◀ホームの就労状況▶

町立美化センター	4名
一般企業	9名
学院内作業	3名

作。献立は寮母と相談して、自分たちで買物をしてくる。もちろん料理も自分たちで……。午後からはお茶を飲みに行ったり、買物やパチンコに出かけたり様々。とにかく、のんびりと自分のしたいように休日過ごしている。

ホームがい

徐々に、夜ホームを訪ねた。夕食も終わり、皆さんリビングでテレビを見てくつろいでいた。座って話し始めると、一人が二階に上がって、八月に職場旅行で行ったパチンコの写真を見せてくれた。それを見ている間に、ほかの場所



夕食後のひととき

「人が多くなって、うるさくなっただい」

「給料がもう少しほしい。遊びに行ったり、お酒を飲みに行きたいから」

「食器洗いの当番がイヤ」

「サーっとホームにいた」

話を聞いていると、いきどろがあったり嫌なこともあるけど、皆さん口をそろえて「ホームがいい」と言う。この言葉を大切にしたい。四人から十六人へと広がってきたホーム。抱える問題も急増している。いろいろな条件がある中で、より素敵なホームにしなければならぬ。今いる人のためにも、これからくる人のためにも……。

もう一つの素心

これがホーム!

生活ホーム さざんかホーム・さざんかホーム女子寮  
グループホーム 第1つばきホーム・第2つばきホーム



最近、大磯の名所の一つになった「県立城山公園」から少し北へ入ったところに素心学院のホームがある。二階建てが二棟、平屋が一棟。いちばん新しいのは、出

ホームの様子

素心学院には4つの「ホーム」がある。名前はさざんかホーム(5名)・さざんかホーム女子寮(3名)・第1つばきホーム(4名)・第2つばきホーム(4名)。

ホームは本院から2キロ程離れた静かな場所にあつて、16名(男10名・女6名)の人たちが2名の寮母と共に日々生活をしている。今回は、もう一つの素心学院である、この「ホーム」を取りあげてみた。



▲ホーム3棟

保護者には事前に何回か説明をしたが、病気になるたびに、失業したときの不安等でホーム利用に抵抗があつたようだ。そのためにもつても学院に戻れるように誓約書を書いて欲しいと言われたりもした。そんな不安を持ちながらの出発だったが、二年後の女子寮設置の時は何の抵抗もなかった。これは当初のホーム利用者が周囲の心配を吹き飛ばしてくれたお陰だと思ふ。

地元説明会も行なつたが、それでも最後まで近所の二、三軒の人がホームの出来ることに不安を持っていた。しかし、すぐに野菜や煮物を差し入れてくれるまでになつてホッとしたのを記憶している。

事業所に対してはホーム入所することになつたので、雇用保険、失業保険等の処遇改善を申したり、あるいはその

生活ホーム(当時は通称ホームと呼んでいた)が男子四名でスタートしたのは昭和五十六年、県下で確か四、五番目だつたと思う。

ホームの設置目的は、大集団にない家庭的雰囲気の中で、そこをバネに就労の安定、生活の充実、より高い社会的自立を目指すことであつた。

もうすぐ10年

生活ホーム

佐伯道夫

ために転職をしたケースもあつた利用者自身も、職員宿舎でホーム生活の練習をしたり、もうすぐホームへ移るんだからと仕事に頑張つた。

最初のホームは二人部屋が二室、寮母さんの部屋や食堂などで、みかけは普通の民家となら変わりがなく、それが施設から出てきたという第一の喜びだつた。

各方面にわたつて準備が必要であつたし、いつもこれだけのだろうかという思いがあつたが、なによりもホーム利用者が喜んでくれたのが励みになつた。

ホームを設置して来年で十年、一つの節目を迎えようとしている。ここまで大きな事故も、又一人のリタイアする者もなくやってこれたのは、学院の支援体制は当然のことながら地域、就労先の理解・応援と、寮母さんの日常の努力に依るものと感謝している。

現在、何の問題もないわけではなく、当初の四名から現在の十六名になり、それにつれ給与の低い利用者も増えてきて、経済的人的フォローも困難になつてきた。そんな現状ではあるけれど、ホームを設置した初期の目的は益々強まってきた。なんとか工夫や見直しをしながら維持、充実を計っていきたいと思つている。

〈指導部長〉

素心学院って、  
“な～に？”

先日、とある駅のベンチに腰掛  
けて、電車を待っていた折、隣り  
に座っておられた御婦人二人の会  
話から「牛乳パックから作る紙」  
という言葉が飛び出したので、つ  
いつい耳を傾けてしまった。「理屈  
は分かるのよ、本で読めばネ」  
「実際にやってみないと…」「香水を  
しみこませたり…ステキ」この様  
に世の話題となっている、牛乳パ  
ックの再生紙に取り組み班の一つ  
室内作業A班を紹介します。

こちら室内A班

9人のメンバーに、3人の職員  
の「室内作業A班」です。素心学  
院の中では、室内作業日班の次に  
女性の多い班で、9人のメンバー  
のうち、6人が女性、職員も2名  
が女性で、班の日頃の様子も、ど  
うも「女性上位？」の様です。

毎日の作業は、名前の通り、室  
内作業中心ですが、週のうち2回  
は近くの石神台団地内公園の掃除  
に出掛けています。

さて、室内作業ですが、一年の  
うち、秋・冬・春にかけての半年  
は、ピーナッツの殻むき作業が一  
部やっていますが、夏場は、現在  
室内グループ全体で取り組んでい  
る牛乳パックによる紙作りに励ん  
でいます。その紙作りも、一番、  
基になるビニールをはがした後の  
牛乳パックを、細かく、ちぎる作  
業です。一元玉大のサイズまでち  
ぎるのですが、大胆にバッサリと  
ちぎるのが得意な人、ゆっくりと  
細かくちぎるのが得意な人、作業  
にも個性が出ます。

一人、通所班へ、お手伝いに行  
っている人もいますが、室内作業  
棟の一番手前の部屋、バッサリ、  
ビリビリ、仕事に動んでいます。



リヤカー回収、日照りの夏もウン！ウン！



はやく！  
遅刻しとや

虫達24番館



整理、整頓？

虫達24番館の住人「元気屋さん」  
仕事に遊びにパワー全開!!  
今回はそのほんの1コマですが  
ご紹介します。カメラを向けると元気  
屋印のイイ顔を見せてくれました。



美・味・探・求



元気な人たちが  
作ったエサを食べて  
ニワトリも元気になります。



仲良し

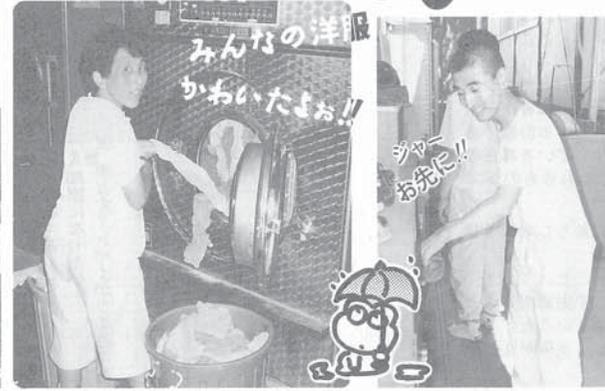
元気屋さん集まれ、  
いつも元気でハツラツと。



起こさないでねっネッ



Beer Garden Party 7/28.8/25



みんなの洋服  
かおいたよ!!

チャー  
お先に!!



スタレの注文待ってまアす。

素心歳時記

★5月21日・22日

今年の全体旅行は、稲取温泉  
の旅だった。伊豆の海を眺めたり、  
海の幸に舌鼓を打ったりと  
楽しい時間を過ごした。

★5月30日

大磯町旅館飲食組合の方々  
が来院され、昼食におそばを御馳  
走して下さった。おかわりをど  
うぞと言われ、みなさん大満足  
の様子だった。

★7月1日

屋休みにグラウンドで、キャ  
ッチボールを始めた人たちが巻  
き起こしたソフトボール旋風ノ  
やがて、そんなチームが結成さ  
れ、愛護ソフトボール大会に初  
陣の旗を掲げるに至った。大会  
は厚木の県央体育センターで開  
かれ、そんなチームは初戦、二  
回戦と快進撃、準決勝まで進ん  
だ。そこで残念にも惜敗したも  
の、18チーム中「4位」とい  
う、目を見張る大健闘だった。



★7月23日・25日

素心キャンプとしては珍しく  
好天に恵まれた三日間であった。  
私たちの日頃の生活は、何でも  
揃って、とても便利。キャンプ  
での「不便」は貴重な体験であ  
った。

★7月28日・8月25日

今年初の試みで、「そんなピ  
アガーデンパーティ」が、この  
夏、二度ほど開かれた。その夜  
皆さんは、夕食後いそいそと身  
仕度を済ませ、男女寮間のペラ  
ンタへ。好みで、ビール、ジュ  
ースを選んで飲み、枝豆やさき  
イカなどのおつまみを口にして  
得意の演歌をカラオケすれば、  
心も体もリフレッシュ♪は、  
二宮の花火大会も観賞でき、思  
い出深い夜となった。

柿の木に甘い実がいつぱい成りました。どうしたのか、その中に一個未熟の渋柿がありました。
悲運にも、その柿の実が我が子元弘に当たってしまいました。
出産は正常だったのですが、発育が悪く首の座わりが半年後、歩けるようになったのが一年六月、異常に気がついて方々の小児科の診察を仰ぎましたが、発育遅滞で、やがて正常になるから心配ないという何処でも同じような診断で一時ホッとしたものの、なかなか言葉が来ません。
これは、間違いない知恵遅れだと毎日不安の気持ちで育っているうちに、三才の時、突然高熱に侵され意識不明になり、直ちに入院して急性肺炎と診断され、その晩先生から「全力を尽くして見るが、まず助からないと思って下さい」と宣告されました。
気が動転して思わず我が子の手を握り「死んでは駄目よ。頑張るのよ」と必死に叫びました。
祈りが通じたのか夜明けになって急に意識が戻り、自分の手で酸素吸入の管を

素心に限らずどの施設でも「コーヒーの魔力」というのがある。食事にでもおやつにでも何でもそうだが、コーヒーと聞くと皆大喜びする。
素心では、毎晩8時半のおやつに次の日のメニューを発表するのだが……

コーヒーの自由化

第1弾

萩原 勝己

たかがコーヒー、されどコーヒー。

「朝は、パンと目玉焼とサラダに「コーヒー」などと言うと拍手喝采万歳三唱、三本メと言うのは大げさだがとにかく皆大喜びである。これが紅茶、牛乳やスープじゃダメで、コーヒーに限る。就職したての頃は単純に皆が喜んでる姿をほほえましく思った。が、そのうち悲しくなった。今の世の中、たかがコーヒーでこんなに喜ぶ人達がどこにいるのか。やかん一杯のコーヒーが出されれば無くなるまで飲み続け、その場を離れられない人がどこにいるのか。何故そんなにコーヒーに心をうばわれるのか。何にでも必要以上に制限されていること、楽しむの少なさに原因があるような気がする。
確かにハンディキャップはある。しかし、我々は入所している人達の行動をあまりに一定方向に限定しすぎてはいないだろうか。例えばコーヒー、おいしいものではないが、飲みすぎれば糖分、カフェインの弊害が出てくる。ハンディキャップの為その辺が理解できにくいだろうから、はじめから一定量しか与えない。入所者の方から見れば、おいしいものがある意味では無理やりに飲えられて、手に入れられる手段を奪われている。いつかめぐるかわからない。これが、大喜びする人達。出されれば群がる人達を生み出しているのではないのか。

法隆寺考

小椋 通雄



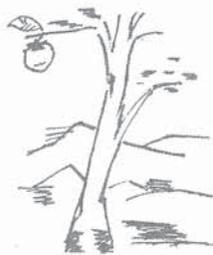
欲求不満は、つるはかりである。我々と同じように、或いは幾つかの工夫、アドバンスで適量を理解し、コーヒーとうまく付き合えるかもしれないし、少なくとも今よりは、心がうばわれないようにできるはずである。
健康の名のもとに、あまりに一定方向に行動を限定しすぎているのではないのか。
世の中は、おいしいものも、楽しいことも、つらいことも、ワクワクすることもいっぱいある。いろんなことを経験することで、一つのことへの理解も深まる。生まれて来た以上、いかに人生をエンジョイできたかが問題だ。それにはまず、コーヒーごとき心をうばわれないで、ダメA班である。
8月より男女寮に、一日中冷たい麦茶が…夜間は時間を限ってアイスコーヒーがセツトされた。
試行錯誤中

はなかった。カンナ(今のよう)に台に刃が進入しているもの、ノコギリさえなかった。そのような時代にあれだけのものを造った、その飛鳥の工人をです。西岡棟梁が言うには、その造ったというエネルギーだけでも凄いの、木の使い方をすればいい、今ではすべて忘れられてしまっていると言います。台カンナがないから平面が出来ません。それでもいくつもの部材を組み合わせ、それもそれぞれ別の人が別の所で作ったものを組み合わせるのと法隆寺のようなものが出来上ってしまおう(木が生きている時に立っていったように南向き)のものは南向きに、北側のものは北側に使って、適材適所というのがこういう所から出た言葉だそうです。平面というのは基準です。木工は基準面を元に数学的に組み合わせて物を造っています。
飛鳥の工人は、そんな物がないのもあれだけのすばらしいものを造っているのです。測量すると左右の大きさが違うといっています。
いろいろな所で生れた人々がそれぞれ環境の中で育ち、それぞれ価値感を持っている。そしてそれらの違いを越えて一つの社会を作る。これは法隆寺に優るとも劣らないことだと思えます。学院の院長、職員、その他の人々を見ていてつくづくそう思うのです。
(木工作业指導員)



我が家の柿の実

秋山 たけ



はずし起き上がる。先生や看護婦さんも驚いて、「これは奇跡が起きた。もう大丈夫、懸命に生きようとする坊やの生命力が勝ったのです。どうかこれから大切に育ててあげて下さいね」と先生の力強いお言葉を頂き、感極まっていたあたまが再び大声で泣き出します。その時の感動は今でも思い出すと胸が熱くなります。
退院間際、日本医大病院小児科の権威、木田博士の診断に依り
母体内脳性小児麻痺とのこと、原因不明で千人に一人の割合で生まれる可能性があるのだそうです。更に、同博士からはっきりと、このような子はあまり長生きが出来ないからせいせいかわいけが出来て下さい。と云われ、そのお言葉に心を打たれ、これを転機に決意も新たに我が家の宝として大切に守っていかうと家族で誓い合いました。
十才の時から学院にお世話にな

つて以来、二十五歳の歳月が流れました。これまで歩んできた険しい道程を振り返ってみると、この子の姉や兄も随分辛い思いをさせました。
帰省期間中の我がまま、また帰省の途中大変なこと、その他悲しかったこと、嬉しかったことなど、いろいろの思い出は数多くとても筆舌に尽せません。
保護者会、ご父兄の方々に申すまでもなく大なり小なりご苦労のあったただただ、の一語に尽きます。
立派に完成した学院で開催する保護者会は、私達にとって何よりも楽しく張り合のある行事で、何時も胸躍らせて出かけていきます。会が終わっての帰りがざわざわ窓から手を振って「サヨウナラ」と叫ぶ者、また外まで出て来て「さようなら」と明るい笑顔の院生達に送られて父兄と語り合いつつ団地のバス停まで歩いて帰る時など足よりも軽く疲れを忘れさせてくれます。
私達も年令の差こそありますが皆様と同じ様な気持ちをもって学院及び保護者会の為に頑張りたいと常々思っております。
男子棟の改築工事も始まって、益々綺麗になっていく学院を楽しみに待っております。
最後に、どうか先生方の温情ある暖かい手で末長くこの子達をご指導下さいように心からお願ひ申し上げます。

お知らせ



多くの入連に親しんでいただいた卵の販売ですが、養鶏場の都合により九月二十一日をもって終了させていただきますこととなりました。
おいしい卵と評判でしたが残念です。院生も残念がっておりますがこれからまた新しい作業等考えて挑戦していきたいと思っております。
尚、しいたげ栽培は引き続き行なっておりますので、ぜひご賞味下さい。
回収班からお願ひ
大磯町各地域のご家庭より古紙・雑誌を沢山回収させていただきます。回収物はヒモで縛り回収ビラの「あしあと」を貼って下さいませ。ご協力お願いします。
更に、空缶、ワイン、一升ビンなどはご遠慮下さい。